

居久根は、北関東から東北地方太平洋側 特に宮城県を中心にした地域の 屋敷林の呼称です。

「居」=家、「久根」=地境であり 屋敷境の意味があります。

主として屋敷の北西側に配置され スギ、ケヤキ、ハンノキ、クロマツの 四種の高木が居久根の骨格。

これらは高さ20m以上に達します。

居久根にやってくる鳥が種子を運ぶため 中低木の種類も豊富です。

居久根集落である南蒲生の方々の話から、 7つの視点で居久根の移り変わりを 整理しました。



居久根の効用・役割

参照:「風土に育まれた屋敷林・イグネ」三浦修(1992年)

防風、防雪、防砂、防潮、防塵、防火、防犯、洪水対策

住みやすくする

夏:植物の蒸散によって周囲の気温を下げる 冬:冷たい季節風を防ぎ、日溜りの中庭は暖かい

燃料、肥料、用材、食料の供給

| 目印と物差し

隣家との境界

大きさによって家の歴史を判断する時間指標



居久根の今と昔

自然の豊かさを取り入れた 自給自足の暮らし

(多くが専業農家)

■落ち葉や枝、木を薪に

■家を建てた(居久根が建材) ■地区内に左官屋、移動製材

- ■孫に「切って家を建てて欲しい」
- ■果樹を食べた(柿、栗、キイチゴ)
- ■家畜を放し飼いにしていた
- ■北風や西風、砂が舞うのを抑えた
- (通り抜ける風が夏でも涼しい)
- ↓♥ V ■学校帰りにビワ、桑の実、グミを採って食べた
- ■緑が鬱蒼と茂っていた ■「もののけ」を感じた

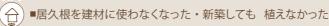
■管理は当時から手間だった



高度経済成長による 暮らしの変化 居久根の役割が変わ り始まる

世帯数の増加・専業から兼業農家へ

■落ち葉を使わなくなっていった (燃料の転換) エネルギー



- ■居久根の果樹を食べた
- ■ブロック塀の登場・住宅の高機能化 ■居久根で台風や強風から農作物を守った
- ■住民だけが知る木陰の抜け道があった
- (♪) ■七夕飾り作り・木登り・かくれんぼ・肝試し
- ■居久根のある景色は生まれた時から当たり 前 ■管理できている家とできていない家があった

● 東京五輪(S39)

■居久根の管理の負担が大きかった

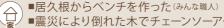


ライフスタイルの変化と居久根の減少 震災を機に居久根のある暮らしを再考

農家の減少・子供や親戚が近所に住む

(●) ■ガスと薪を兼用(灰小屋を共同で利用)











、根で津波から家が守られた ■居久根がなくなり、隣近所が見えてしまう ■北風を防ぐものがない・風で家が揺れる
■家の中にいても音が気になる

■居久根の一部を切って広い庭が出来た(庭で自転車遊び、お茶って、BBQ)

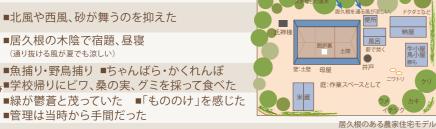
■震災後に外との交流の機会が増えた

■ホタルや野鳥が見られた ■「みちのくの湘南」

■居久根が減少しかくれんぼができなくなった

■津波で枯れた居久根を切った
■今になって昔は緑が多かったことを感じる

2003 (H15)



● 昭和三陸地震(S8)

海岸林の植樹

●仙台新 港開港(S46) ● 宮城県沖地震(S53)

● 東部道路完成(H6)

● 阪神•淡路大震災(H7)

● 東日本大震災(H23)

~2011年(H23)の南蒲生·

-世帯人数**3.1**人

(290世帯・892人)

参照:住民基本台帳 011年2月

第二次世界大戦

高度経済成長期

オイルショック(S48~)

1933 (S8)

1943 (\$18)

1953 (S28)

1963 (\$38)

1973 (S48)

1983 (S58)

バブル経済

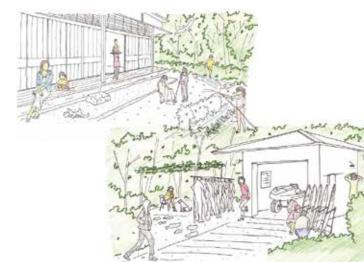
1993 (H5)

2013 (H25)

「えんがわ」「にわ」の楽しみ方

ホニト。ソトを楽しむ/手入れを楽しむ/食を楽しむ

- ・緑にかこまれた庭では、縁側を大きく作ってソトとのつながりの場を設け 楽しむ事もできます。
- ・一休みの空間(あずまや、ベンチ)を作ったり、そこを利用して庭の畑か ら直穫りした野菜で食事会を開くことなどは、「ならでは」の豊かな食の楽 しみを得られます。
- ・納屋や倉庫等を改装してマリンスポーツや農のある暮らしなどを楽しむ 人々との交流の場とする事も考えられます。





居久根を「にわ」「むかい」「かこい」に分けてみました。

高木が生い茂るこれまでの「居久根」を

復興まちづくりを契機に居久根を通じて

「自然の豊かさを暮らしに取り入れてきた先人の知恵」

個人で所有・管理を継続するのは大変

集落の暮らしや住まいも変わって、

居久根に求められる役割も変化し

居久根の役割・効用を学び、 暮らしの中で活かせるものを探そう ■「えんがわ」「にわ」などの身近な場所から 自然(緑)を取り込む暮らしを楽しもう

■近所との調和を意識し、

「むかえ」や「かこい」をつくろう

■みんなで遊べる 居久根ひろばをみんなでつくろう

■ 居久根を次世代につなげる 新しい仕組みをつくろう

・居久根に囲まれた広場は、小径やビオトープのある子供の遊び場、市民農園、町内のお祭り、居久根マルシェ など、みんなが集まれる場となります。 ・みんなで木を植え、育て、誰でも参加でき、普段から居久根を体験できます。

みんなでつくる広場/みんなで植えるひろば/子供の遊び場/

√基♪ 「みんなの居久根」をけん引/様々な関わり、交流/みんな職人

・みんなの居久根に賛同する方の土地の提供を受け、「居久根ひろば」をつくりましょう!

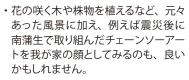
■「居久根ひろば」をつくろう!



「むかえ」のつくり方

表 我が家の"顔"づくり/季節を楽しむ

- ・敷地の入り口付近は、その家の"顔" であり、地域を印象づける大きなポ イントになる場所です。

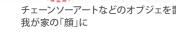






花の咲く木、実のなる木など

緑を多く見せる工夫を ポイントになる木や草花



チェーンソーアートなどのオブジェを置いて

「かこい」の作法

・居久根が持つ防風・日射遮蔽・目隠し・ 遮音などの効用を活かしましょう。



- ・集落を抜ける旧街道沿いの調和から考 えましょう。
 - ・数種類の樹種を混植させ、緑の変化
 - この時に、葉の落ちるもの、そうでな いものを巧く配置しましょう。
 - ・通りに緑を多く「見せる」工夫をしましょ
 - ・無機質になりそうな場所こそ、緑で覆 う工夫をしましょう。

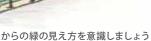
大きめな木を ポイント的に配置 シラカシなど - 株もの、ツツジなど

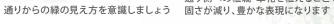
楽しみながらつくる

▼通りに緑を多く「見せる」工夫 -











にわ」や「むかえ」の延長線上で 植栽で覆う工夫

盛り土の上部にも植栽をすると

工夫ができます

通り側への植栽・草花を植えることで

ブロック+アルミフェンスでも緑がのぞく

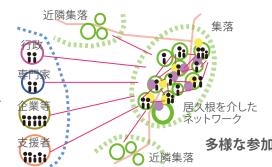


シダ系の植物で覆う工夫

■「みんなの居久根」に参加する仕組み

- ・個人で所有し管理をしている居久根を、次世代につなげるために、業 たな価値観や多様な参加の仕組みも必要です。
- そのけん引役は「居久根ひろば」です。
- ・活動に興味をもつ方々(市民・企業)や専門家、行政を巻き込んで取 り組むことが大切です。
- ・合い言葉は「居久根っていぐね?」です!
- ※「いぐね?」は仙台弁で「いいよね?」





とにかく、楽しもう!!~たとえばこんなことも~

●居久根マルシェ

- ・生産者と消費者が直接売り買いする市が、昨今では"マルシェ"などの 名前で全国的に開催されています。
- ・居久根集落のとれたて野菜が「居久根ひろば」に集まる居久根マル シェ。野菜を売ったり、おすすめの献立を教えたり、居久根の下で新 たな出会いが生まれるかもしれません。
- ・とれたて野菜をその場で味わえる農家レストランがあってもいいでしょ

●市民農園

- ・小さな区画の農地を借りて、市民も居久根集落で野菜をつくりませんか。
- ・夏でも涼しい居久根の傍で、熟練農家の指導を受けながら、楽しく野菜をつくれます。
- ・落ち葉を集めて肥料を作ることはもちろん、焼き芋や落ち葉プールなど、居久根の恩恵を受けることができます。
- ・育てた野菜は居久根マルシェに出品できるかもしれません。





- ●仙台市は生垣づくりへの助成、保存樹木・保 存樹林制度による税制上の支援措置、津波 被災地域への苗木提供の仲介(ふるさとの 杜再生プロジェクト)などを行っています。こ れらを上手に活用しましょう。
- ●多様な主体が参加する仕組みの例として、 みやぎの里山林協働再生支援事業(宮城 県)、わたりグリーンベルトプロジェクトなど があります。所有する緑地を地域に開放す る市民緑地制度もあります。様々な事例を 参考に、居久根を次世代につなげる仕組み を考えることも大切です。





南蒲生町内会や専門家と一緒に「みんなの居久根」のイメージを

専門家:日本建築家協会宮城地域会、廣瀬俊介、田賀陽介 力:南蒲生町内会、仙台市建設局百年の杜推進課

写真提供: 高橋親夫、二瓶明美

南蒲生

仙台駅から東へ約10kmに位置し、豊かな自然に囲まれた、都 市近郊の居久根集落。

東日本大震災では最大4.5m超の津波により甚大な被害を受 けました。



浦生まち歩き

●南蒲生鍋沼集落をまち歩き。残った居久根や再建 状況などを調査しました。





「みんなの居久根」ワークショップ

- ●かつての暮らし・住まい・環境・植生など、南蒲生地区の 昔の様子を住民の皆さんから伺い、「居久根今昔年表」を 作りました。
- ●ランドスケープの専門家や建築家のレクチャーを受けて、 居久根の効用や暮らしでの必然性を考えました。
- ●「これからの居久根ってどんなもの?」「こんな居久根が あったらいいな」をみんなで話し合いました。

実生の植え替えワークショップ

シロダモやツバキなど、約50株の実生の植え替えを行いました。





紙芝居の上演

南蒲生復興祭で紙芝居 「居久根の妖怪たんころりん」を 子どもたちに披露しました。





活動の発信

●仙台市主催の「百年の杜づくりフォーラム」において 事例報告を行いました。



特定非営利活動法人 都市デザインワークス

〒980-0802 宮城県仙台市青葉区二日町6-6-903 TEL. 022-264-2405 FAX. 022-796-0080 E-mail. info@udworks.net URL. www.udworks.net

このリーフレットは、平成25年度の取組の成果をまとめたものです。 引き続きみんなの参加・協力を頂きながら、「仙台平野みんなの居久根プロジェクト」 を推進していきます。 ご参加・ご提案をお待ちしております。





facebookで発信中! https://www.facebook.com/minnanoigune